

# 朝日新聞

エリア広告特集

全国の自治体&ふるさと回帰支援センターがあなたの田舎暮らしを応援します!!



## 日本の未来と個人の幸福感 ふるさと回帰は新しい文化に

日本総合研究所 主席研究員  
特定非営利活動法人  
ComPus地域経営支援ネットワーク 理事長

### 藻谷 浩介

対談 X

1964年山口県生まれ。平成合併前3,200市町村のすべて、海外75カ国をほぼ私費で訪問し、地域特性を多面的に把握。2000年頃から、地域振興や人口成熟問題に関し精力的に研究・著作・講演を行う。12年から現職。近著に「デフレの正体」(角川oneテーマ21)、「里山資本主義」(角川oneテーマ21)、「金融緩和の罠」(集英社新書)、「しなやかな日本列島のつくりかた」(新潮社)、「和の国富論」(新潮社)。

認定NPO法人  
ふるさと回帰支援センター代表理事

### 高橋 公

1947年生まれ、福島県出身。77年自治労本部入職、97年から連合へ出向、社会政策局長。麻生内閣「暮らしの複線化」研究会委員、菅内閣新しい公共推進会議委員、環境省環境審議会臨時委員、食を考える国民会議委員、農水省「食と地域の「絆」」選定委員会委員、東日本大震災の義捐金配分決定委員有識者代表委員、観光甲子園審査委員などを歴任。現在はNPOふるさと回帰支援センター代表理事。神道夢想流杖道5段。

都会から地方への移住に新しい潮流が起こっている。

「定年後の第2の人生」とどまらないこの流れに、

藻谷浩介さんは、日本社会のひずみを補正する力を期待する。

「ふるさと回帰支援センター」代表理事の

高橋公さんとともに、活動の意義と未来を語り合った。

● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

7年間で相談件数が約9倍に  
ふるさと暮らしの希望者が激増

藻谷 ふるさと回帰支援センターの活動には以前から注目していました。それにしてセンターへの相談件数の増加ペースはすごい。ここ3年で倍以上に増え、昨年毎月1800件です。高橋 2002年の発足当初は多くて月50件でした。当時、団塊世代の定年が迫っていて、定年後は田舎に帰りたいと希望する人のために、都市と農山漁村を結ぶネットワークをつくらうと、全国の消費者団体、労働組合、農林漁業団体、経営団体などが集い、NPO法人として発足したのです。相談、問い合わせ件数が増えたのは2008年頃からです。

藻谷 2002年といえば1949年生まれが53〜54歳で、ちょうど第2の人生を考える頃。ですがその団塊世代の退職期が過ぎても、相談は増え続けた。リーマンショックや大震災の当時以上に、この数年の方が相談が多い。しかもこの伸びは、ロジ曲線としてはまだ初期段階。恐らくここからさらにぐーっと増えていきますね。

高橋 私もそう思っています。3年後には年間6万人を見越しています。今年からは当センター内に、移住者を受け入れる全国44の府県が相談コーナーやブースを設け、36府県1政令指定都市が専属相談員を配置しました。場所も有楽町の交通会館8階という便利な場所です。さらに、大。県同士で情報の共有もできます。

藻谷 やる気のある県が競争できる場になったので、相談者が「あっちもいいね」と比較できますし、各県が競って受け入れ体制の質を上げていくものと期待しています。

高橋 地方自治体は子育て支援や住宅支援の補助金など、いろいろな制度を出していますが、移住希望者にはそういうサービスで場所を選ばないようアドバイスしています。まず、誰とどこで何を暮らすのかをはっきりさせて、希望する暮らしができる場所を選んでほしい。支援制度があればラッキーだったくらいにしたい方がいいのです。

藻谷 そう、競うのは補助金の額ではなく、定住に向けた支援体制の質です。本筋に定着する人を増やせる県と、補助金を食い逃げされる県の差は大きい。センターは14年もの間、定着率の差やミスマッチの実態を見えていますから、地方自治体と移住希望者、双方に的確なアドバイスができる。たいへん意義のあることです。

20〜30代の若い世代が新しい価値観で生活をシフトする

藻谷 全体の数の伸びも著しいのですが、年代層の変化も注目ですね。2009年頃は相談者の7割が50代以上だったのに、今は30代が相談者の主体。20代も6割も増えていきます。地方への移住という、都会の会社で肩たたきにあつた50〜60代が考える……というイメージでしたが、最近では明らかに、若者の目が地方に向き始めています。

高橋 若い人が不安定雇用の都会を見限った、というのがあります。さらに、子育て世代がよりよい環境を求めて移住するパターンが増えてきました。新しい世代による大きな流れが生まれています。

この事業では以前はイターンが多かった

と比べてますし、各県が競って受け入